

# カナモジ書体とは

ノハラ ススム

わたしたちは、カタカナで文章を書くとき、カナモジ文用にデザインされた書体「カナモジ書体」を使っています。それは、カタカナの「語形をつくる力」を最大限に発揮させるためです。

アルファベットは語形をつくる力のつよい文字です。たとえば、英語の「dog」という単語は、「d」・「o」・「g」と1字ずつ拾い読みしなくても「dog」全体をひと目でとらえることができます。カタカナにも語形をつくる十分な力があります。カタカナはその大部分はもともと漢字の一部だからです。（「イ」は「伊」の左、「ヒ」は「比」の右の部分です。）「イ」と「ヒ」で漢字の「化」を、「夕」と「ト」で「外」を形づくっているように、カタカナを組み合わせると「イヌ」「ヒト」のように語形をつくることができます。このことによって、単語は語形としてひと目でつかむことができるのです。

ところが、ふだんわたしたちが目にする明朝体やゴシック体などのカタカナは、漢字かなまじり文で使われることを前提として設計されたものなので、語形をつくるということにはまったく心配りがなされていません。したがって、カタカナの語形をつくる力を出し切ることができません。

そこで、この語形をつくる力を最大限に発揮させるように工夫してつくられたのが「カナモジ書体」です。現在、フォントがつくられているのは、「アラタ」と「ツルコズ」です。明朝体と比べてみてください。上から「明朝体」（20 ポ、ヨコ幅：100%）、「アラタ」（20 ポ、80%）、「ツルコズ」（24 ポ、100%）。

アキ ノ ユウヒ ニ テル ヤマモミジ

アキ ノ ユウヒ ニ テル ヤマモミジ

アキ ノ ユウヒ ニ テル ヤマモミジ

「アラタ」「ツルコズ」の大きな特徴は、「アキ」「ユウヒ」「ヤマモミジ」を  
覧になれば分かるように、上の水平線がおなじ高さになっていて、文字と文字とを  
結びつけていること、そして、「キ」「ヒ」「ヤ」のようにその水平線の上に突き抜け  
るタテの線が文字の連なりにさらに個性を強めて語形をつくっていることです。こ  
れは、アルファベットの語形をつくる力とおなじ原理です。たとえば、英語「foot」  
の「f」と「t」のヨコ線が「o」の上とおなじ高さにあって、語全体をまとめ、タテ  
線が上へ飛び出すことで変化を加えて語形をつくっているのとおなじことです。

「アラタ」のフォントは、全角なので、カナモジ文ではタテ長に設定する必要  
があります。（そのほうが語形が短くなり、読みやすい。）また記号が少ないので、  
ほかのフォントと合わせて使う必要があり、「アラタ」でカナモジ文を書くのはかな  
り面倒です。「ツルコズ」のフォントは、記号が多くおさめられており、楽にカナモ  
ジ文を書くことができます。最後にそれぞれの書体のセットをご覧ください

<アラタ4 K> (16 ポ、ヨコ幅 100%)

アイウエオ カキクケコ サシスセソ  
タチツテト ナニヌネノ ハヒフヘホ  
マミムメモ ヤ ュ ヨ ラリルレロ  
ワヰ ヱヲ ン ガ ザ ダ バ パ

<ツルコズM> (24 ポ、ヨコ幅 100%)

アイウエオ カキクケコ サシスセソ  
タチツテト ナニヌネノ ハヒフヘホ  
マミムメモ ト ュ ヨ ラリルレロ  
ワヰ ヱヲ ン ガ ザ ダ ハ パ

☆「アラタ」をお求めになる方法は、カナモジカイにお問い合わせください。

☆「ツルコズ」は販売サイトから手に入れることができます。「ツルコズ」で検索を。

([カナモジカイ](#)の機関誌「カナノヒカリ 959号」より一部改め転載)

〈追記〉2018年12月1日現在、「ツルコズ」は販売休止となっている。